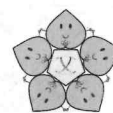




# 桃五だより



No.568

(10月号)

杉並区立桃井第五小学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/momo5shou/>

2018. 9. 29

## 「みんないっしょに」と「自分らしき」

主幹教諭 田中 博司

7月の西日本豪雨災害、台風21号の暴風被害、そして、北海道胆振東部地震と、この夏、日本列島は例年以上に大きな災害に見舞われました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。また、今なお、避難所生活などで苦勞をされている方には、一日も早く安心した日常が戻ることをお祈りします。

さて、こうした大きな災害時に配給物資をもらう人たちの姿や、避難所生活を送る人たちの様子が、海外から称賛されることがあります。もちろん、問題点もないわけではないでしょうが、それでも、日本人の態度やマナーは、世界に誇れるものであります。東日本大地震の規模の災害が他国で起きていたら、もっと大きな二次被害が生じていたのではないかと話も耳にしました。

こうした日本人の資質を培ったのは、日本の学校教育の影響も大きいと感じます。集団生活を基盤に、みんなが気遣いながら生活することや、相手への思いやりをもち、協力して活動することは、これまで日本の学校教育において大事にされてきたことすし、桃五小でも、大切に育てている態度です。

一方、学校教育の中では、このような「みんないっしょに」の価値を大事にすると共に、「自分らしき」という価値にも目を向けていきたいと考えます。

同年齢の子どもたちが、共に過ごしている教室では、みんなと同じがいい、みんなとそろわなければいけないという思いに偏り過ぎることがあります。特に、高学年になり、思春期を迎えた子供たちが、まわりの子の輪に入るために、いかにみんなと同じでいられるかと、思い悩む姿も時に目にします。

しかし、そもそも、人は、一人一人が違う存在です。得意なことも、苦手なこともそれぞれ違います。自分だけの特徴があること、自分らしくいられることにも、もっと誇りをもてるようになってほしいと考えます。

スマホやインターネット、人工知能が基盤となるこれからの社会においては、知識よりも、個人の資質・能力、思考・表現力が必要とされるようになっていわれます。違う文化の人とかかわり合うこともますます増えてくることでしょう。ダイバーシティ（多様性）という言葉は、これからの教育の在り方を考える上でのキーワードとなっています。そんな社会背景からも、「みんないっしょに」という協調性、協働性を大切にすると共に、「自分らしき」という個性を認め合える教室づくりを目指したいと考えます。

折しも、学校は、年に一度の大イベント運動会のシーズンです。颯爽と駆け抜ける力強い走り、みんなが息を合わせてそろえる集団演技は、運動会の見どころです。自分が活躍する姿、これまでの練習の成果を見てもらいたいと、毎日ワクワクして登校していた子どもも多かったことと思います。しかし一方で、走ったり、踊ったりすることが苦手で、ちょっと重い気分の子も中にはいたかもしれません。けれども、そんな子供たちも、やりたくないという思いを乗り越えて、一生懸命努力をしてきました。それぞれの子が、自分なりの物語を描く運動会です。自分の力を出し切って活躍する子供たちと共に、苦手な自分と向き合い、自分らしくがんばってきた子供たちへも、温かい声をかけていただけると幸いです。

### 10月の生活指導目標

#### オープンスペースや階段を正しく歩こう

- 階段では右側を静かに歩こう。
- オープンスペースでは、遊ばないようにしよう。
- 教室移動の時は、クラスごとに並んで行こう。
- 雨の日の過ごし方を工夫しよう。
- 遊び用具は大切に使う。

2学期が始まり、1か月が経ちました。疲れの出てくる時期と思います。こんな時には、思わぬ事故が起こりがちです。オープンスペースや階段の歩行の仕方、室内での過ごし方について、もう一度基本に立ち返り、落ち着いた学校生活にしていきたいと思います。